

# 約100年前、芹川少年が映画「忠臣蔵」を記憶から描き起こした！



今から約100年前、熊本県山鹿市の当時15歳だった少年芹川文彰は、日本最初の映画スター尾上松之助最晩年の無声映画『(実録)忠臣蔵』(1926年)を観て、ペンや筆で描いた細密画、約五百枚で全編再構築しました。まだ劇画という概念がない時代のもので、私たちはこれを「キネマ画」"Cinema Drawings"と呼びます。同年12月に描き始め、18歳の誕生日を控えた1929年5月10日に描き終えています。今のように写真集もビデオテープ、DVDもない時代にあって記憶だけで描き通し、独自のコマ割り、ベタ塗、吹き出しなど今の漫画や劇画の先駆とも言える作風ではないかと思います。今回は現役の活動弁士と楽士により、キネマ画『忠臣蔵』を紙芝居風に演じてご覧に入れます。

## 講演「忠臣蔵文化とその周辺」児玉竜一

「忠臣蔵」は演劇作品の名前が、歴史上の事件の通称となっている珍しい例です。実際の赤穂事件から、『仮名手本忠臣蔵』に代表される文楽・歌舞伎を経て、浮世絵、江戸時代の文芸、落語、講談、浪曲、時代小説、ありとあらゆる創作が、映画の歴史に流れ込んでいきます。映画と忠臣蔵の関係を知るための「忠臣蔵文化」の世界を紹介します。

早稲田大学教授。演劇博物館の展示にも携わり、2023年から館長。歌舞伎学会会長。専門は、歌舞伎研究と評論。編著に『能楽・文楽・歌舞伎』(教育芸術社)他多数。



児玉竜一

## キネマ画『忠臣蔵』活弁上演



活動弁士：坂本頼光

2018年花形演芸大賞金賞受賞



マスコット・キャラクター：石橋葵、東地美咲(京都芸術デザイン専門学校1年)



サイレント映画ピアニスト：天宮 遥

第57回日本民間放送連盟賞優秀賞受賞



## 対談「静止した映画・動く劇画」佐藤守弘 vs 伊藤遊



佐藤守弘

### ◇佐藤守弘

同志社大学文学部美学芸術学科教授/JoMA研究メンバー。博士(芸術学)。写真を中心とした視覚文化とメディアの歴史や理論を研究している。単著に『トポグラフィの日本近代—江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』(青弓社、2011年)。

### ◇伊藤 遊

京都精華大学国際マンガ研究センター特任准教授。大阪大学大学院文化研究科単位取得退学。専門はマンガ研究・民俗学。立ち上げから関わった京都国際マンガミュージアムを中心に、国内外で数多くのマンガ展のキュレーションも行う。



伊藤 遊

司会進行：佐藤守弘/企画：太田文代(おもちゃ映画ミュージアム)/音響照明：(株)クリエイティブcommons

お問い合わせ、お申込み；おもちゃミュージアムへ



一般社団法人京都映画芸術文化研究所  
おもちゃ映画ミュージアム  
TOYFILM MUSEUM  
<https://toyfilm-museum.jp>

〒604-8805 京都市中京区壬生馬場町29-1 ☎075-803-0033  
e-mail: info@toyfilm-museum.jp 10:30~17:00 月・火曜日休館



同志社大学  
Doshisha University

【お知らせ】2015年5月に開館したおもちゃ映画ミュージアムは2024年12月末で現在の場所での活動を終え、来春4月から京都・西陣での第二幕開幕を目指しております。今後とも変わらぬ応援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。